

1液水性デクロ

水性1液速乾変性エポキシ樹脂さび止め塗料

3-014WJB-00-01
日本ペイント株式会社
製品使用説明書

規格表示

JASS 18 M-111 水系さび止めペイント

JASS 18 M-109 変性エポキシ樹脂プライマー (変性エポキシ樹脂プライマーおよび弱溶剤系変性エポキシ樹脂プライマー) 変性エポキシ樹脂プライマー相当*

* 該当規格の性能を満たしています。(社内試験)

特長

- ・水系、非危険物、1液形なので、臭気が少なく、ポットライフがない取り扱いやすい商品です。
- ・環境配慮形塗料です。
- ・乾燥が速く、作業性にすぐれています。

塗料性状

色	ホワイト(白さび色)、グレー、赤さび色								
密度(g/cm ³)(23)	1.40((ホワイト、グレー)、1.35(赤さび色))								
光沢	-								
引火点	-								
発火点	201 (参考値)								
消防法表示	化学名	水溶性合成樹脂塗料							
	危険物区分	-							
	危険物等級	- (-)							
有機溶剤区分	なし								
毒劇物表示	-								
有害物表示	エポキシ樹脂								
ホルムア	登録(認証)番号	N02321							
ルデヒド	区分表示	F							
放散等級	問い合わせ先	http://www.toryo.or.jp/							
国連/指針番号	-								
環境性能	クロヒドロキシレン スズレ(モマ-) フタル酸ジ-2-エチルヘキシル フェノブチル	配合せず 0.1%未満 配合せず 配合せず	ホルムアルデヒド パラシクロヘキサン フタル酸ジ-n-ブチル ダイアジノン 鉛	配合せず 配合せず 配合せず 配合せず	トリエン エチルベンゼン テトラカルボン酸 アセトアルデヒド				
T V O C	6.9%								

・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。

塗装基準
下地調整:
荷姿:
希釀剤:
塗装方法:

・塗り替え時の素地調整は発錆部、劣化部は第2種ケレンを、活膜部はサンドペーパー等で表面調整を行ってください。

16kg、4kg

水道水

塗装方法	はけ、ウールローラー塗り	エアレススプレー塗り
希釀率	0~5%	0~5%
使用量	0.13~0.15kg/m ² /回	0.13~0.15kg/m ² /回
膜厚(ドライ)	35μm/回	35μm/回

・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釀率および測定機器・測定方法により増減します。

・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるよう使用量・塗り回数を調整してください。

乾燥時間:

指触乾燥	5~10	23	30
塗り重ね乾燥	2時間	1時間	30分

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

エアレス条件:

一次圧0.4~0.5MPa 二次圧12Mpa以上 チップNo.163-413、415など

特記事項

- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・十分な塗膜性能を確保するため、規定の使用量をおまもりください。
- ・ごみ・ほこり・砂・油・樹液などは、塗装前に水洗い、溶剤拭きなどで十分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。
- ・さびは、ワイヤブラシ・サンドペーパーなどで入念に除去し、膨れ・割れの発生にも注意し、十分なケレンを行ってください。
- ・鉄、アルミニウム、溶融亜鉛めっき、電気亜鉛めっきなどを塗装する場合は入念な面荒しを行ってください。
- ・下地調整程度が悪い場合には、早期にさびを発生する可能性があります。

注意事項

- ・乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがあります、時間とともにになります。
- ・氷点下で貯蔵すると凍ります。凍らないように5℃以上で貯蔵、保管してください。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすことがあります。
- ・内部塗り替えにおいて旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、研磨すりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
- ・素地の乾燥は十分に行ってください。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁してください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れます、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- ・笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ・はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ・汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
- ・表面に特殊セラミック処理・特殊ガラスコート処理、フッ素コート処理、はっ水処理、光触媒処理などの特殊な処理を施した素材には、塗料が付着しない場合や、塗膜に不具合を生じる場合がありますので塗装を避けてください。
- ・上塗りに強溶剤系塗料のご使用は避けてください。
- ・塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ・開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・開缶後は皮張りがしやすいため、表面にうすく希釈剤を張り、ふたをしておくと、皮張りを遅くすることができます。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。

Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved. この書類に対する加筆、修正はご遠慮ください。